

客を楽しませるのも女将の仕事だろ？



真面目な女将が

クレーム対応する七泊八日



「...そうですね」

旅館の廊下

「なんて事があってよぉ〜」

「ははは・・・あっ!」

「ん?」

「何してるの」

(女将さん・・・)

(やっべえ・・・)



「仕事時間でしょ」
「あつその・・・ちよつと休憩を・・・」
「今は休憩時間外よね」
「はい・・・」



（やばいぞ、さぼってんの見つかった！）
（このまま説教なんて嫌だぞ）
（俺だって嫌だよ・・・あっ！そうだ！）

「そういえばさつき仲居が困ってましたよ
何でも客からひどいクレームがあったとかで」
「そう、これから忙しい時間なのに困ったわね
私に対応に行くわ」



「仕事続けて」

「は、はい!!」

「・・・行ったか」

「いつ見ても女将さんは威圧感あるよな」

「ああ、すげえこわいし一切融通効かねえし

少しは柔らかくなってる欲しいんだがな」

「無理な話だろ」

「ところでさっきの話はマジなのか？」

「ああひどいクレームの客だる

女の従業員に手出しまくってるらしい

「へー」

客の部屋

「お客様、酒の相手を付き合えなんて困ります」

「あ？なんでよ？金払ってるからいいだろ？」

「他のお客様も同じように支払っております」

「人の楽しみをとらないでくれよお」



「あつ、じゃあさ、キミでいいから付き合ってよ、な？」

「これから仕事ですので」

「なんだよくじゃあまた他の仲居でも捕まえるか」

（埒が明かないわね・・・）

20分後

「おかしい・・・こんなにお酒に弱かったかしら・・・」
「ほらほらぐいっと」



「客を楽しませるのも女将の仕事だろ？」

「・・・そうですね」

「良い飲みっぷりだな、よしもう一杯」

この時
男は一切飲まず私に酒を勧めるばかりだった
それに気付く事ができれば
あんな事には・・・



「んう……ん？……っ！」
「おっ、起きたか」



「……なんのつもりですか」
「ちよっと遊ぼうかなと思っただよお
こういうのはどうだ？」

時間は1時間
俺が女将の身体をまさぐって
我慢できたら女将の勝ち
一度でもイッたら俺の勝ち
勝ったら何でも命令できる」

「もし女将が勝ったら俺に
おとなしくしてるって命令したらいい」

「最初の話と違うようですが……」

「オイオイ、人間き悪いな」



「客をもてなす前に勝手に寝たのは誰だよ？
遊びに付き合ってくれたら
それは水に流すって言ってんだよ」

「.....」



「良い風に考えるって
俺を黙らせる最後のチャンスだぞ？」

「……わかりました」
「そこなくっちゃ」



たった一時間私が我慢するだけ
それで全て丸く収まる……



「もうイツちやっただの？張り合いがないなあ」
（あの薬よく効くなあ〜）

「あっさりイツちやっただけど何か感想は？」

「はあ・・・はあ・・・しようがありません、私の負けです」

「それじゃあ罰ゲームだけど今晚俺と寝てよ」



「わかりました」

「あれ？やらせてくれんの？
てつきり嫌だからやめてって謝ると思ったのに」

「私は約束は守りますから」
「そっかあ」

（ほんとにクソ真面目な女だな、そこがすごく良い
こういう女を好き放題するのがたまらないんだ・・・さて、何してやろうかな）



良い眺めだなあ
あまり上手くはないが真面目な女将らしく
一生懸命ちんぽをしゃぶってやがる



「……そろそろ出そうだ」



「全部飲めよ」

「はい」

「ちゃんと舐め取って綺麗にする、裏もだ」

「はい」

(言った事何でもしてくれるな)

(今夜たっぷり仕込んで俺好みの女にしてやる)
「じゃあ寝室いくかここからが本番だぞ?期待してるからな」
「・・・わかってます」



(おおきい・・・こんなのが私の中に・・・)
「へへっ、あんたが結構良い身体してるからさ
こんなギンギンになっちゃったよ」

ゴム・・・

ポト...

「あ・・・ゴムをつけて頂けませんか」

「あ？もってきてねえよ、外に出すからいいだろ？」

「・・・わかりました」



「狭いな、堅物みたいだし抱かれるのはご無沙汰なんじゃないか？
どうなんだ？ん？」



（ぐう・・奥まで無理やり・・中が潰れちゃう・・）
「いっばい いっばいで聞こえてねえか、動くぞ」

(早く終わって.....)

「そろそろ出すぞ
たっぷり中に注いでやるからな」
(.....えっ)



「そんな・・・約束が・・・」
「良い女を相手にしてるんだから
中に出さなきゃ失礼だろ」

「早く出さないとほんとに・・・」
「一回出しちまったらもう何度出してもいいよな
ほらっ続きやるぞ」







あれから数時間
休むことなく男は私を抱き続けた
何度も犯されたけど
この夜さえ終われば……

「ふう出た出た
俺さあ女将さんの事
かなり気に入ったよ
もう他の女は
どうでもいいや

あと今日は疲れたし
このくらいにする」
ようやく解放される……



ピロントッ♪

「えっ・・・今の音は・・・」
「ああ録画してたんだよ
セックス中ずっとな」

「心配するな
この事は誰にも言わない
お前と俺だけの秘密だ」

それと

お前の望み通り
明日から従業員には
手を出さないでやるよ
どういう意味かはわかるよな？」

「・・・わかったわ」



「温泉でこんな。。。」
「貸し切り用で誰も来ないんだろ？」
「そうじゃなくて、こんな事したら湯が汚れてしまうわ」

はぁっ

はぁ...

「湯が汚れないように中出ししてほしいんだな、わかったよ」

「ちがっ、そういう意味じゃ」

ガッ

ガッ
ガッ
ガッ





あー
おっぱい

あー
おっぱい

おっぱい

おっぱい
おっぱい



「あーあ、結局溢れてんじゃん
ちゃんと締めないからこうなるんだぞ」
「うっ。うっ。うっ。」



んっ

ほっ

ほっ

グッ
グッ
グッ

ゴッ
ゴッ
ゴッ

んっ
んっ
んっ



ついには仕事中の私を
男性用トイレに
無理やり連れ込んで・・・

ゴ
ゴ
ゴ

「ここじゃ誰か来ちゃ、うぐっ」
「急にしたくなかったんだから仕方ねえだろ」

ガ
ガ
ガ



従業員の声が聞こえる

(うわっ本当に誰か来た、やべー・・・
でも気持ち良すぎて腰とまんねえわ)





「・・・行っただか？危なかったー
びびりすぎて思わずこんな出ちまったわ」

「じゃあ続きを・・・あれ？女将？大丈夫？」



「その衣装すげえ似合ってるよ、最高だ！」
「嬉しくないわ」

「その顔も含めて良い、へへへへ」

By

「本当にやるのね？」

「ああ、前から一回やってみたかったんだ」

「はあ・・・わかったわ」







クッ
クッ

グッ
グッ

(こんな事のどこが良いのかしら……)

「ふう、興が乗ってきたぞ
その格好のまま布団に來い」

ポロポロ









「ふうっすっきりした
シャワー浴びて寝るとすっかな
あっ、またその格好して」

ビュ

びしょびしょ

わー

「そろそろ女将も俺の事を気に入って来ただろ？」

「それだけはないわ。。。」

「ほんとかよ〜」

「んうっ！」

「これが良いんだろ？
ケツ叩かれながらやるの
イキたいならイっていいぞ
同時に中出ししてやるからさ」



「。。。つくう！」



⚡

トコトコ
トコトコ

ゴキョ
ゴキョ

ゴキョ
✓

✓



「これやるとすげえイキ方するよな
身体と同じくらい正直になれよ」



私の身体はもうこの男の玩具になってしまった
この男と離れなければ
いずれ取り返しのできない事になる

分かってはいるが
私にはどうする事もできない
解放される日まで耐えるしか・・・

数か月後

「そーいやあの客ずっと泊ってんな」

「あぁクレームつけてた客か」

「そーそー、何でずっとここに居るのになって」

「分からんけど何かしら気に入ったんだろ」

「今となつては面倒事も起こさず泊ってくれてんだ
良いお客さんだよ」

「それもそうか」

「何をしてるの」
「あっ女将!・・・さん」
「あのっこれは・・・」



「・・・」

「休憩していいから仕事はちゃんとするのよ
あと休むなら客室から離れた所でしなさい
わかったわね？」



「えっ……」

「……は、はい！」

「じゃあ私はお客様の対応に行くから」



「・・・女将さん変わったよな」

「ああ、腹出てからまったくの別人だよな」

「そういえばお前女将さんの相手知ってる？」

「いやわかんない、別にどうでもいいし」

「えっと・・・仕事もどっか」

「ああ・・・」

「おっ来た来た
ちやんと下にこの間のエロ衣装着て来たか？」
「ええ、言われた通り着てきたわ」
「お前も気に入ってるだろ？」



「・・・べつに」

「いつもあんなに乱れるのによく言っぜ」

「女将孕ませたのが俺って従業員は知ってんのか」
「知るわけないでしょ」

「ははは、だろうな
部屋を出れば真面目な女将で通ってるもんな
お前がドスケベな女って知ってるのは俺だけだ」

「・・・」

ぶおっ

ぶおっ



「ほら、こっち来い
今日も朝までみっちり可愛がってやる」

「ええ」

おしまい

「今日は危険日だから・・・その・・・」
「ふーん」

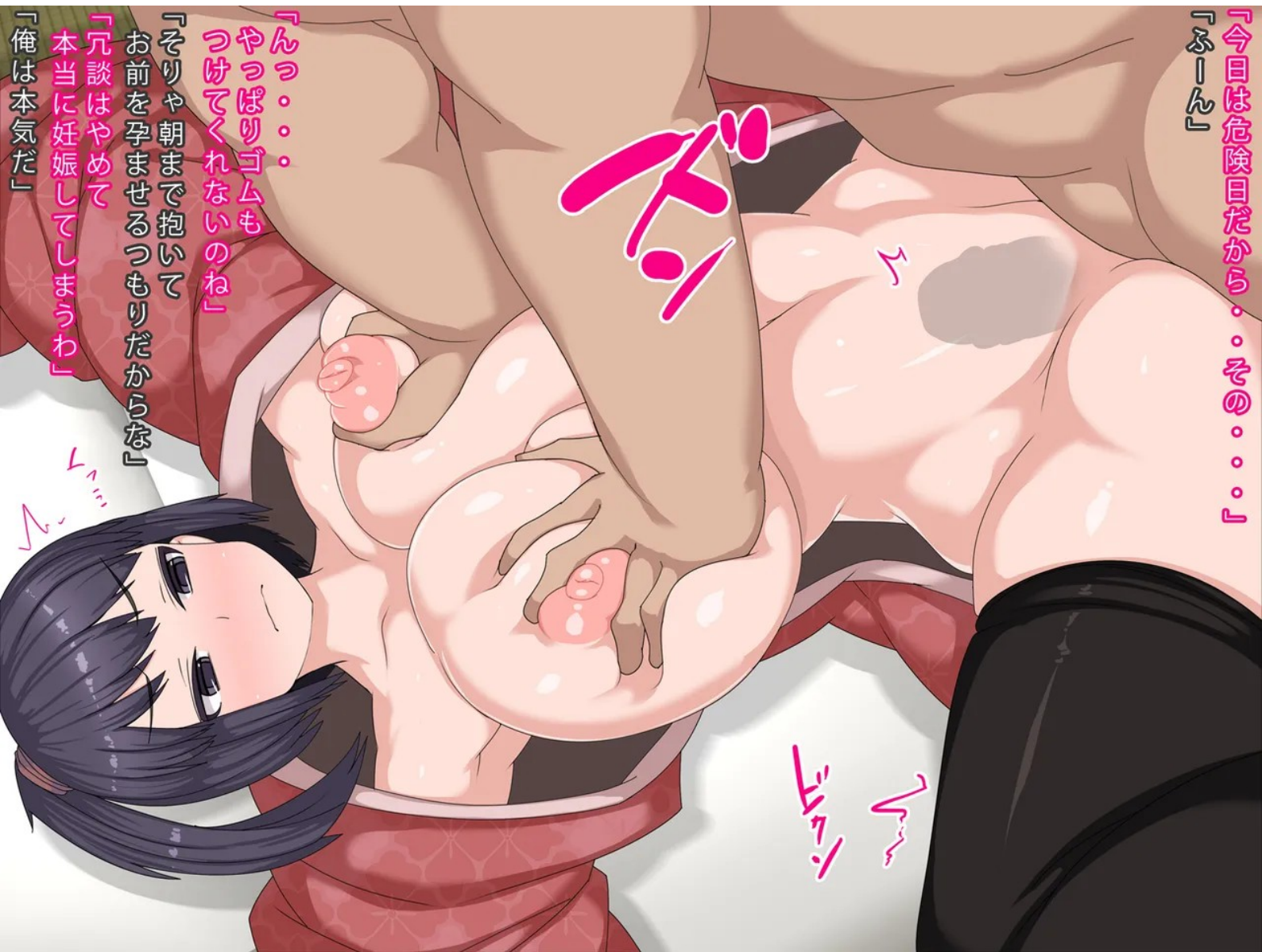
ズン

「んっ・・・
やっぱりゴムも
つけてくれないのね」

「そりゃ朝まで抱いて
お前を孕ませるつもりだからな」

「冗談はやめて
本当に妊娠してしまうわ」

「俺は本気だ」



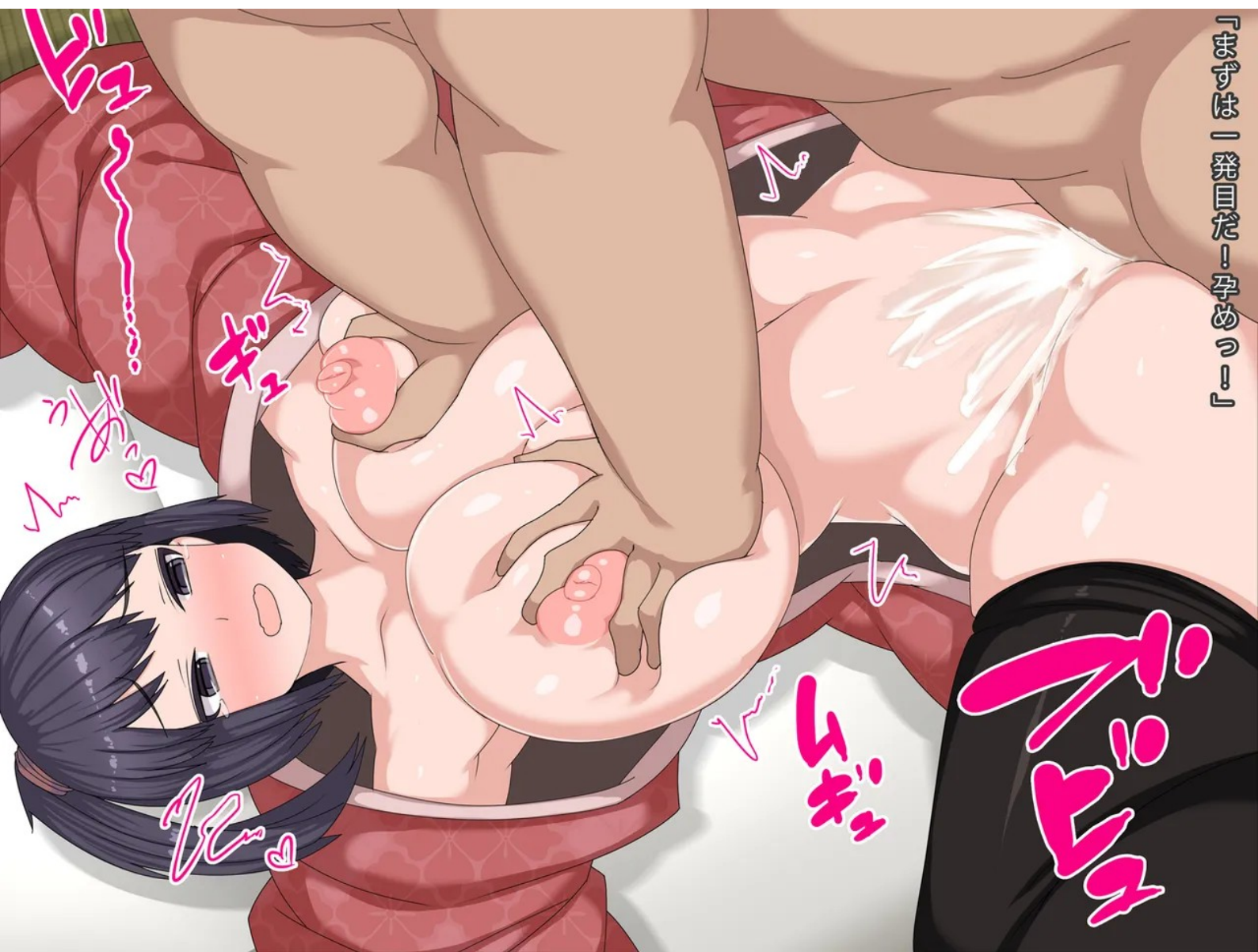
「その証拠に宿泊を一カ月延長したんだからな
女将だからそれも当然知ってるだろ？」

「それで内心喜んでる」
「変な事言わないで」

「こっちは本気だ
危険日ならむしろ都合
このままいつも通り中に出すぞ」
「やめて」
「やっぱ抵抗はしないんだな」



「まずは一発目だー孕めっー!」



「すげえ締め付けてくるじゃねえか
ほんとにこれでデキたりしてな」



「そんな顔するなよ
ちゃんと約束通り朝まで何度も抱いてやる」

おっぱい♡













































































































